

検し、ひびのないことを確認。点検しにくい、できないという理由ではない。5年より前の点検箇所でも今回再点検した箇所にはひびはなく、今回ひびのあった6箇所は全て初めて点検した箇所。

(国の指示違反)

**意見** 保安院の通達で、ひびが認められた場合、点検予定箇所数と同数について追加点検を行うという部分、これが5年間で見ればいいということにはならない。

傷があれば取り替えるものを、今度は傷があっても大丈夫にすりかえる言い方に、不透明な感じを受ける。

(シユラウドのひび)

**Q** 6、7号機より長期間使われている4号機シユラウドにひびがなかったのはなぜか。シユラウドは中性子を浴びるわけだが、ひびができないような加工がされているのか。傷ができていなくても危険状態だとか、もろさを何か数値で測られているのか。

**Q** 4号機の後に製造した女川

2号、浜岡4号、志賀1号のシユラウドにひび割れがあったり、ひび割れ対策を講じている。4号機だけがひび割れしなかった理由は。

**A** (東電) 6、7号機の建設段階でシユラウド溶接付近にひび割れが起きるといふ知見がわかり始めており、磨きというひび防止対策を先取りして行った。4、5号機の場合も違う目的で磨きを行っており、それぞれ違うやり方の磨きだったので、ひびの出やすさに差があるようである。調査して後日回答する。

また、シユラウドが中性子を多量に浴びるともろくなる。ことがわかってはいるが、実際に原子炉内でシユラウドが浴びている量はもろくなる量より千〜一万分の一少なく、影響を受けるような量ではない。

(人為ミス)

**Q** 福島ではインターロックを解除したまま複数の制御棒を引き抜くというヒューマンエラーの発生、重さ60kgのアルミカバーを原子炉内に落とした等、重大なトラブル・ミス

が次々と発生。東電は信頼回復に努めると言っているが、こういう状況では非常に不安。再発防止に努めている中で何でこのような事が起きるのか。

**A** (東電) 確かに福島のは大変反省すべきことだが、柏崎では福島と違って、ステツプ毎に確認して次に進むようやり方を詳細に定めている。従って福島と同じことが柏崎で起こるとは考えられず、逆に福島の方にこちらのやり方の水平展開を急いでいる。

再発防止策の仕組み・枠組みは少しずつ整っているが第一線の職員の体の隅々まで徹底には時間がかかる。単純ミスについては90日間の特別安全強化活動を行い再発防止策を強化するなどの取り組みを行っている。

(労務管理)

**意見** 福島の発電所サイトには

毎日のように救急車が入るとか、町の飲み屋にさっぱり人が来ないので東電の社員に来てもらいたい。毎日残業で疲れて行ける状態でないとも聞いている。労務管理上の健康

管理が大事であり、士気の低下にならないような配慮と作業員に対する管理を願いたい。それから、東電社員が悪いことをしないかと目を光らせるばかりが会の趣旨ではない。点検・補修工事等、激励するくらいの気持ちを持つべき。

**A** (東電) 労務管理については、精神的な面も含めて厳しい状況であることを承知しており、残業を減らす努力や健康管理にも気を配り、例えば関係部署に要員を増やし、休日も作るなどしている。また、仕事の際には作業要領・手順を協力企業と再確認し、問題が起これば、立ち止まってよく考える活動に取り組んでいる。

**Q** 東電の下請け、孫請けで災害が発生しても不景気な中、仕事をもらえなくなるので報告もできないという話を聞くが、本当か。

**A** (東電) ちよつとしたけがでも当直長が把握し、労務災害があっても仕事を出さないことがないような仕組みに取り組んでいる。そのような風土作りが大事